

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300075
法人名	医療法人 明生会
事業所名	グループホームこもれびの家
所在地	愛媛県四国中央市下柏町5 4 番地 1
自己評価作成日	H28年1月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

広い窓から四季の風景を眺めることができ、天候や自然の移り変わりがよくわかり、ウッドデッキとゆったりとした環境の中「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人の結びつきを大切に」を心がけ利用者様と共に生活しています。季節の食材を使いバランスのとれた食事・季節感を味わって頂けるよう利用者様と一緒に作り食を楽しんでいます。地域の方・ボランティアの方々の訪問を大切に交流を行っています。母体が病院でいつでも受診でき、また訪問看護と連携をとり適切な受診や看護を受けられるよう支援を行っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

年3回、家族会を開催しており、ほぼ全家族の参加がある。さつま芋ほりをして焼き芋をつくったり、芋たき会等、ご家族が利用者と一緒に楽しく過ごせるよう計画している。  
季節ごとに花を楽しみに、みなで出かけたり、家族会として、ご家族にも車出しを協力してもらい、花見や外出に出かけている。日常の中では、利用者と一緒に食材の買い出しや近くのコンビニにおやつを買いに出かけている。入居時、ご家族から利用者が好む場所やお店等の情報を得ており、自宅近くの神社や商店に出かけることもある。利用者ご本人が道案内してくれるようだ。衣類の購入等の希望がある時には、ご家族に伝えてご家族が支援するケースもある。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム こもれびの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

鈴木 香織

評価完了日

平成28年1月29日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員はもとより訪問者の目にも止まりやすい位置に掲示している。毎朝、朝礼にて唱和することで意識づけを行い、理解共有しケアへと繋げるよう心掛けている。	
			(外部評価) 「いつも一緒・楽しく・ゆっくりと」「人と人の結びつきを大切に」と理念を作り、廊下に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議等で地域の方との交流が図れる様に努めている。近所の子供達が遊びに来てくれ、ピアノ演奏をしてくれたり、利用者様と一緒に塗り絵を楽しんだり、交流を深めている。	
			(外部評価) 自治会に加入している。回覧板を利用者と一緒に次のお宅へ回したり、近所の方から野菜やお菓子をいただくこともある。夏休み等には小・中学生のボランティア訪問があり、一緒に折り紙や塗り絵をしてくれる。地域の福祉専門学校の学生は、年4回程、定期的に訪問があり、利用者と一緒に散歩したり、準備してきたレクリエーションで楽しませてくれる。近所の方で傾聴ボランティア講習を受けた方が月2回程度、利用者の話相手に来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会等を活用し、認知症の人の理解を深めていただけよう働きかけている。地域への貢献はできていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 生活状況や問題点等の報告や話し合いを行い、助言や地域の情報を得ている。頂いた意見を取り入れサービス向上に努めている。秋祭りに地域の子供太鼓が今年も近くまで来て下さりお祭りを楽しむ事ができた。</p> <p>(外部評価) 事業所は、「つながりがある地域の方との関係が途絶えないように」、又、「いつも気にかけてもらえる存在であるように」、という思いで会議テーマを考えて取り組んでいる。取り組み報告や食事について、防火訓練について、福祉用具について等、外部講師等を招き勉強する機会も作っている。会議には、利用者、ご家族2名～4名程、民生委員、市の担当者の参加がある。管理者は、参加者が固定化傾向になることを課題に挙げており、今後さらに、地域のいろいろな方に会議参加を呼びかけてほしい。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月に1回ふれあい相談員さんの訪問がある。運営推進会議に高齢介護課の方が参加してくれている。市町村の行事にも出来るだけ参加し協力関係を築けるよう努めている。毎月のグループホーム便りを市に送っている。</p> <p>(外部評価) 毎月発行する事業所便りを届けたり、制度等についても聞きながら運営している。社会福祉協議会には、行事で使用する綿菓子機を借りることがある。月1回、ふれあい相談員2名の訪問があり、利用者の話を聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員は身体拘束について理解しているが、転倒の危険性の高い利用者を見守りが不十分になると判断した場合のみ、机の前に置く等し固定させていただき事があり御家族には同意を得ている。。玄関は施錠せずオープンに出来ているが、出入り口等に段差がある為、センサーの使用はしている。また、転倒の危険がある方のみ居室でもセンサーマットの使用を行っており、御家族には同意を得ている</p> <p>(外部評価) 現在、5名の利用者の居室にセンサーマットを使用しており、又、落ち着かない状態の利用者があったり、シフト上、見守りが困難な場合には、玄関のセンサーをオンにして対処している。年1回、事業所内で身体拘束についての勉強会を行っている。センサー使用については、弊害についても話し合いながら必要性を定期的に点検してほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  常に更衣時や入浴時に異常がないか気をつけている。小さな気づきも日誌などで申し送り職員間で情報を共有し全員で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  権利擁護に関する制度の理解はできているが、職員の異動が多く、今後研修の機会を設け、理解を更に深め、いつでも活用できるように努めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時に重要事項説明書などで説明を行い、理解、納得を得ている。解約時や改定時等も充分説明を行い、理解、納得を得ている。また不安や疑問点を聞き取り説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  面会時や家族会などに気軽に話せるような雰囲気づくりに努めている。苦情については、書類に記し、管理者会議で報告し反映に努めている。意見箱の設置を行い意見を頂けるよう努めているが意見箱は活用されていない。  (外部評価)  年3回、家族会を開催しており、ほぼ全家族の参加がある。さつま芋ほりをして焼き芋をつくったり、芋たき会等、ご家族が利用者と一緒に楽しく過ごせるよう計画している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>ミーティングで意見や提案を話し合ったり、個々の面接を通して聞く機会を設けている。そこで出た意見や提案は、法人のミーティングで伝え反映されるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月1回のミーティング時には、意見を出し合い全員で検討しており、一週間交代で職員が立てる献立について、内容が重ならないよう連携すること等についても話し合っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>半期ごとに自己目標を掲げ自己評価を行っている。業務内容の見直しは職員間で話し合い行っている。利用者様も高齢な方が多くリスクが高くなってきており、精神的な環境整備も必要になって来ている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>資格修得の支援をしてくれ、研修にも参加させてくれる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>外部研修・相互研修・四国中央市GH交流会などに参加し、同業者と交流し情報交換の機会を持っている。研修で得た情報は、ミーティングなどで報告し話し合いサービスの向上に努めている。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族から事前アセスメントを行い、不安や要望等を聞き、入居後は日々の関わりの中で、信頼関係が築けるよう、寄り添いを大切に、言葉や表情の変化を見逃さないように努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 職員全員が面会時など家族と話しやすい雰囲気づくりに努め、面会時などに近況報告を行い要望などを伺う様になっている。相談を受けた時は、傾聴し丁寧に対応し受け止めるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前の様子の情報収集を行い、職員間で協議し、見極め本人や家族の希望等を交えたサービス提供が出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員間で話し合い、利用者の出来ること・得意なことを見極め、得意な事をお願いしたり、時には教えてもらい共に楽しく生活できるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には近況報告をし、通院、家族会、誕生会の参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。また不安になっている時など電話で利用者様と話してもらったり面会をお願いし協力を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人や家族から情報を得て馴染みの人に連絡し、誕生日を一緒に祝ってもらったり関係が途切れないように努めている。(年賀状・暑中見舞いを送付)またお友達に手紙を書くなど支援に努めている。 (外部評価) 友人からの贈り物が届いた際に、お礼の電話ができるようサポートしたり、手紙が届けば、「お返事書きますか?」と聞いて、利用者の希望の通りにサポートしている。現在、利用者個々の馴染みの人や場についての情報をご家族等に聞き取っているところであり、得た情報をもとにして外出支援等につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食卓テーブルやソファに座る位置など配慮し寛げる雰囲気を作ったり、役割を個別に変えるなど、一人ひとりを理解しその時々のお思いに合わせた関わりを持ち孤立しないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の療養病棟に移られた方は時々面会に行くが相談や支援の機会はない。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で本人の思いを知り、ミーティング等で話し合い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。体調の変化や表情などにも気を配りその人らしい生活ができるように努めている。	
			(外部評価) 入居時には、ご家族に事業所独自のアセスメント様式を渡し、家庭での呼ばれ方・今まで打ち込んできた事、身に付けた技術・行き付けの店・自慢に思う事・好みの服装、好きな色・日課・特別な祝いたい記念日等の情報を記入してもらっている。職員は、日々のかかわりの中で利用者の反応を見ており、情報は職員間で共有して対応方法等を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の会話での聞き取りや家族や親類の協力で得た情報(アセスメント表)を、職員間で共有するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌や申し送りノート、バイタル測定状況など確認しながらスタッフ間で密に連絡を取り、小さな変化を見落とさないように、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族の面会時、家族会や運営推進会議の後等に、時間をつくり情報収集や相談、話し合いの場を設け、意見を伺っている。本人やご家族の希望に添うようミーティングで話し合い介護計画を作成している。自分の意思を伝えられない方は健康面や少しでも良い表情をして頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、計画作成担当者である管理者が、利用者、ご家族、職員の意見を聞きながら作成している。歌がお好きな方は、歌うことを続けられるように、「何か私の出来る事をさせて欲しい」と希望する方には、食器洗いや食事の下ごしらえ、洗濯等を無理なく行えるように計画を立てている。実施状況は毎日記録し、毎月「介護計画達成状況」としてまとめしており、3ヶ月に1回全職員で見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプランの達成状況を日々記録しているので職員間で統一したケアの実践ができ、介護計画の見直しにも活かされている。日々の申し送りや日誌の確認を行い共有できるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の状況に合わせ柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の方の慰問（童謡唱歌の会・燧灘防災会）の協力を得ている。利用者様のレベルにあった支援の在り方が課題となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族が希望するかかりつけ医にて受診している。受診時には連絡ノートを使用し、必要に応じ受診時に同行し状況を伝えている。体調を崩した時など訪問看護に連絡をとり指示を仰ぎ支援している。	
			(外部評価)	
			入居以前からのかかりつけ医に受診しており、定期受診はご家族が支援している。受診日前夜に、利用者の様子やバイタルサイン等の健康情報を夜勤者がノートにまとめ、受診に付き添うご家族に渡している。受診結果を書いてくれる医療機関もある。週3回、訪問看護師の訪問があり、利用者の身体状態の確認や処置をしてくれる。24時間、看護師に連絡できる体制であり、職員は相談したり指示を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			訪問看護師と連携を図り、適切な受診や看護が出来るよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入院時には情報を提供し、早期退院が出来るよう連絡を取り合っている。職員も面会に行き不安解消に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			早い段階で本人、家族の意向を大切に、主治医とも相談「できること、できないこと」を見極め支援に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			ご家族は、終末期は病院や他の施設に移ることを希望する方が多く、事業所では看取りを支援した事例はない。昨年、急変し救急搬送となった利用者があったことから、管理者はすべてのご家族と延命治療の有無等について話し合い確認した。	利用者が住み慣れた事業所で最期まで過ごしたいと希望した際には、希望に沿った支援できるような体制を作ってはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  消防署の救命講習を受けている職員はいるが、職員全員が対応できるよう講習参加し緊急時対応できるようにしたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年2回防火訓練を行っている。運営推進会議で防火訓練を行い、消防署の方のお話を地域の方と聞く事ができた。地域の方の協力体制も少しずつ築けてきている。	
			(外部評価)  年2回、夜間の火災想定で避難訓練を実施しており、運営推進会議と併せて実施することもある。昨年7月の訓練時には、近所の方には避難後の利用者の見守りをお願いした。火災ベルが鳴ったが「何の音がわからなかった」と言う利用者もあったようで、消防からは「警報器が鳴ると火災と日頃から周知しておく必要がある」と指摘を受けた。災害発生時には、災害伝言ダイヤルで安否確認し合えるように、家族会時に説明した。今後は、地震を想定した訓練も検討している。備蓄は、パンや水等の食品3日程度とランタン等を用意している。たばこの習慣がある利用者は、喫煙場所はウッドデッキと決めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  職員間で話し合い、プライバシーを損なわない言葉かけや対応を心掛けている。時に職員のペースになっていることがあり注意したい。	
			(外部評価)  利用者に行動を促す際には、必ず声を掛け、移動して欲しい側を触れる等して利用者が理解しやすいように対応している。耳の聞こえにくい方が複数おり、職員の声が大きくなりがちのため、他の利用者が不快な思いをしないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  本人の思いや希望を表したり、自己決定出来るよう、声かけなど工夫している。日々の関わりの中で話かけやすい雰囲気づくり、思いを受け止めるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理な声かけはせず出来るだけ利用者の希望に沿った支援に努めているが、職員の勤務人数により、業務に追われ職員側の意向をあおることがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の整容、外出時に洋服を着替える等、その人らしい身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の行事のメニューや旬の野菜を取り入れ食事を楽しみながら、利用者一人ひとりの力を活かし、一緒に調理から片づけまで行っている。好みにも配慮している。 (外部評価) 入浴支援する週3日の昼食は、業者から食事が届くようになっていたが、他の献立は、栄養士が作った献立を参考にして旬のものや肉、魚、野菜のバランスを考えながら立てている。便秘予防のため寒天ゼリーを毎食付けており、ミルク、紅茶、抹茶等、味を変えて美味しく食べられるように工夫をしている。パンがお好きな方が多く、週2~3回朝食はパンを取り入れている。利用者は、野菜の皮を剥いたり切ったり、下ごしらえをしている。調査訪問時には、食後に食器洗いやテーブル拭き、食器拭きをする方が様子がみられた。節分には利用者と一緒に巻きすで恵方巻を作った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜を中心にバランスよく栄養が偏らないよう配慮し献立を考えている(職員が一週間当番制で献立をたてる)食事量や水分摂取量を記録し、不足している場合はおやつなどで補えるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っているが、十分に磨く事が困難な利用者様には仕上げ磨きを行い、口臭や歯槽膿漏等がある利用者様は個別の歯磨き粉、歯ブラシ、マウスウォッシュを使用してもらっている。就寝時には義歯洗浄・消毒を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄パターン表を活用し、定期的なトイレの声かけにより失敗しないよう支援している。声掛けの工夫も行っている。気持ちよく排泄できるよう排泄のサインを見逃さないように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄状況を記録し、声かけや誘導してトイレで排泄できるよう支援している。トイレ使用中は、職員はトイレの外で待機して、必要に応じて声をかけ介助している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>毎食事に寒天ゼリーを付け食物繊維を取り入れるよう工夫している。便秘の方には、のむヨーグルトやセンナ茶を活用している。身体を動かす(口腔体操時に足踏み、散歩)など工夫し、服薬は便の状態に合わせて調整している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>職員の勤務体制により曜日の決定を行ってはいるが利用者一人ひとりにあった入浴方法を支援している。声かけのタイミングや言葉を選ぶことで無理強いをせず、入浴して頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>火・木・土曜日が入浴日となっている。季節によってユズ湯や菖蒲湯を用意している。ひとりで入浴することを希望する方には、脱衣所で待機し、時々、ドア越しに声をかけて様子を確認している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の体調や状況に応じ昼寝を取り入れたり、自由に居室や和室で休息できるようにしている。馴染みの布団や枕を使用している。眠前には、温かい飲み物を提供しリラックスできるように努めている。また、冬場は足浴を実施している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に薬剤情報をファイリングして、いつでも確認できるようにしている。変更があるときは日誌で申し送り、症状の変化に注意している。必要に応じて訪問看護師や主治医に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味などを活かし個々の能力を発揮出来る場面を提供できるようケアプランに設定し全職員が共通意識を持って支援できるように心がけているが、勤務体制によっては、ゆっくり支援することが難しい時もある。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務体制により希望に沿えない時が続くこともあるが、出来る限り実現させようと努力している。天気の良い日はウッドデッキでおやつを楽しんでいる。また、時々、スーパーに買い物に出かける事もある。ご家族にも協力を得てお墓参りなどの外出支援を得ている。 (外部評価) 季節ごとに花を楽しみに、みなで出かけたり、家族会として、ご家族にも車出しを協力してもらい、花見や外食に出かけている。日常の中では、利用者と一緒に食材の買い出しや近くのコンビニにおやつを買いに出かけている。入居時、ご家族から、利用者が好む場所やお店等の情報を得ており、自宅近くの神社や商店に出かけることもある。利用者ご本人が道案内してくれるようだ。衣類の購入等の希望がある時には、ご家族に伝えてご家族が支援するケースもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 雑誌やお菓子の買い物など希望に沿って本人の財布から支払えるよう支援しているがあまり使っていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って支援できている。特に希望が無い方にも、年賀状や暑中見舞いを書いていただいたり、プレゼントが届いたときはお礼の電話をかけていただくよう働きかけている。友達と手紙のやり取りや面会に来て頂けた方もあり今後も継続できるように支援していきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) トイレの場所が分かるように名札を掲げ、季節の花やお雛様、五月人形、クリスマスの飾りつけなどを行い季節感を演出している。カーテン、加湿器にて光や湿度の調節の工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 食堂や居間には、水仙や桃の花を生けお雛飾を飾っていた。廊下には、外出時や行事の写真を掲示していた。居間は、南側に大きな窓があり、ウッドデッキに直接出られる。ウッドデッキでタバコを吸う方もいる。車いすでも、ウッドデッキからスロープで庭や畑に出られる。居間には、利用者全員が座れるソファを設置している。畳の間にはコタツを置いている。調査訪問時、食堂では、DVDプレーヤーで日本昔話を見たり、本や新聞を読んでいる利用者の様子が見られた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合う利用者同士で居室で寛がれたり、暖かい日にはウッドデッキで日向ぼっこも楽しめる。冬場は和室の掘りごたつも利用している。リビング、食堂、と思いいいに寛がれる居場所を工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者により個人差はあるが馴染みの物、家族の写真など持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫している。お位牌を持ち込まれ、心のよりどころとされている利用者様もいる。</p> <p>(外部評価) ベットとダンス、加湿器が備え付けてあり、ご自宅から座椅子、フットマッサージ器、ダンス、棚を持ち込んでいる方がいる。お位牌を持ち込んでいる方は、毎日お水を取り換えて、手を合わせている。読書がお好きな方は、枕元に本を置き、ご自分のペースで読んでいた。以前から編み物がお好きな方は、ご家族がご自宅から持参した毛糸で編み物をしていた。洗面台に化粧品を並べている方が複数あった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室前に名前と写真を掲示し、廊下やトイレなどには手すりがある。バリアフリーの為、車椅子や歩行器の使用も安全に行える。一人ひとりの出来ることを把握・理解し安全に生活できるよう支援している。</p>	